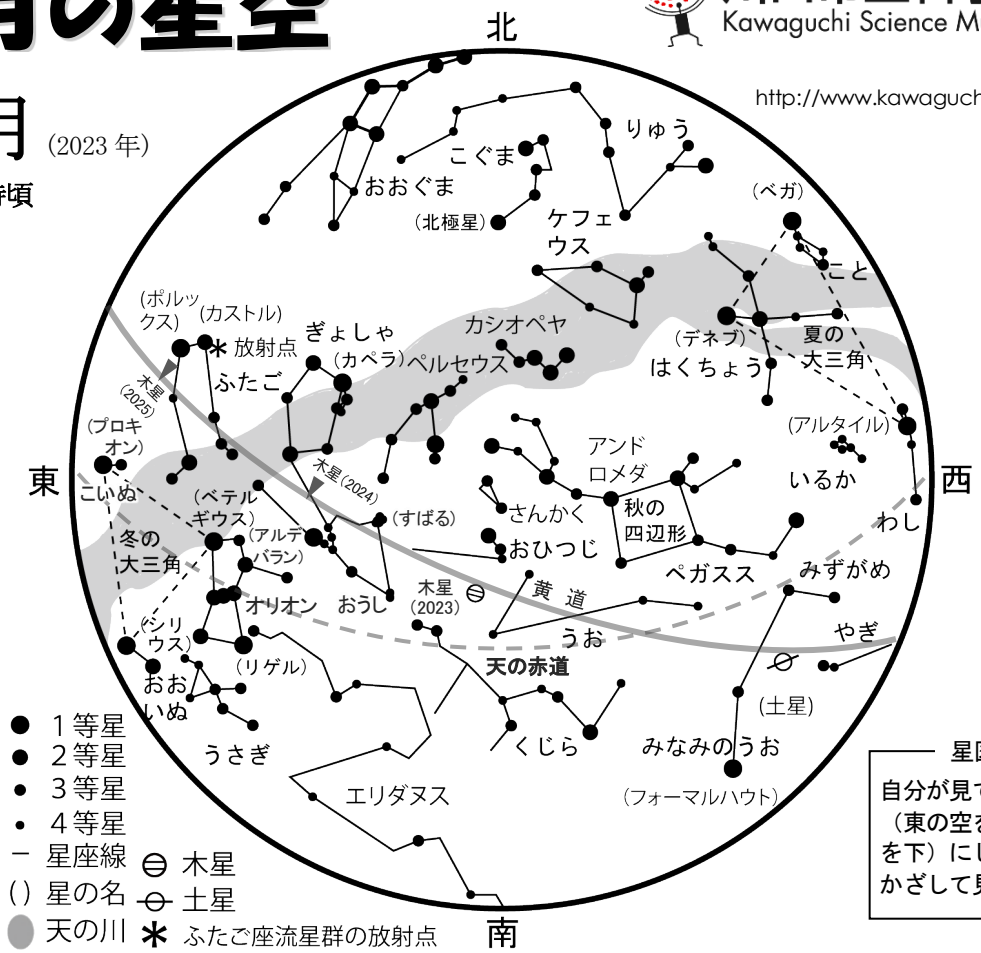
今月の星空

川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum
tel 048(262)8431
http://www.kawaguchi.science.museum/

12 月 (2023 年)

中旬 20 時頃



星図の見方

自分が見ている方角を下（東の空を見るときは東を下）にして、頭の上にかざして見ます。

月　　齢　◑ 下弦 5 日、● 新月 13 日、◐ 上弦 20 日、○ 満月 27 日

惑星情報

金星　日の出前 南東（おとめ座→てんびん座 −4 等）　土星　夜のはじめ頃 南西（みずがめ座 1 等）
木星　夜のはじめ頃 南東→南（おひつじ座 −3 等）

☆天高い木星と昇る冬の星座

22 日に冬至を迎え、早い時間帯から星を眺められる季節になりました。宵の空では、東から南の空高くに−3（マイナス）等の木星が目立ちます。東に目を移せば、それぞれ 1 等星をもつ「おうし」や「ぎょしゃ」、「オリオン」、「ふたご」といった冬の星座を見つけられるでしょう。木星の英語名“Jupiter（ジュピター）”は、ローマ神話の主神ユピテルが由来で、ギリシャ神話のゼウスにあたります。夜空を見上げると、空高い場所で神々しい輝きを放つ木星は、さながらゼウスを連想させ、後に続いて昇る狩人オリオンやアテネの王エリクトニウス（ぎょしゃ座）、ゼウスを父とするふたごの兄弟カストルとポルックスを従えているようです。

☆三大流星群のひとつ「ふたご座流星群」が今年は好条件！

毎年安定して多くの流れ星が観測できるふたご座流星群が 15 日午前 4 時頃に極大を迎えます。観察に適した日は 13 日〜15 日の 3 夜で、特に極大に近い 14 日午後 9 時頃から 15 日午前 5 時過ぎまでがおすすめです。また、今年は好条件が重なり、ここ数年で最も多い流星数が予想されています。その条件の一つは、流星群の極大※1 が放射点の高い時間帯（午前 0 時〜3 時頃）※2 とほぼ重なる点。二つ目は、月明かりの影響がない点（13 日が新月）です。次に同じような好条件がそろうのは 2026 年となります。

※1−極大時刻の変化　2022 年…14 日 22 時、2023 年…15 日 4 時、2024 年…14 日 10 時、2025 年…14 日 17 時
※2−他の流星群に比べて、ふたご座流星群の放射点の高度は夜の早い時間帯から高い（以下）ため、観察しやすい。
［12 月 14 日の放射点高度］21 時…34 度、0 時…68 度、2 時…84 度、4 時…60 度

ワンポイント ～夏は低く、冬は高く昇る木星～

現在の木星の南中高度は 65 度を超え、実際には見上げるほどの高さです。木星の高さは、どの星座に位置しているかで決まります。約 12 年かけて黄道（星図の実線 ——）上を一周する木星は、今年はおひつじ座、来年はおうし座、その翌年はふたご座（星図の▼）に位置し、平均して黄道 12 星座を 1 年に一つずつめぐります。上記の星座は、天の赤道（星図の破線 - - -）よりも北側（星図では上側）にあるため、高く昇ります。反対に夏の星座であるさそり座（天の赤道の南側）に位置するときは高度が低くなります。